

# “Heart to Heart”

第10巻 第3号 (No.31)

発行日 平成28年3月1日

心から心へ わかちあう あたたかさ

## 目次:

「どうして」から 「どうしたら」へ	1
療育プログラムのようす	2 3
コラム：自閉症児の 発達研究から(2)	4
教育センターからのご案内	4

## 「どうして」から「どうしたら」へ

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

今年度もいよいよあとわずかとなりました。子どもたちは、進級・進学に向けて心を弾ませていることと思います。一方、保護者の方々にとっては「入園・入学する園や学校に適応できるだろうか」「新しい担任との相性はどうか」など、次年度のことについて気をもんだり、慌ただしい思いをしたりしている時期であるかもしれません。

また、この時期は、学校でもセンターでも、1年を振り返り担任・担当との目標に対する達成の状況や今後に向けての方向性を確認し合う時期でもあります。保護者の方々には、子どもたちが毎日の生活の中で成長が見られ喜んだり、停滞しているように見えたりと一喜一憂しながら過ごされた日々であったのではないかと思います。いつも近くにおいて、子どもたちと過ごされている保護者の方々にとって、近視眼的な視点になりがちなどから少し距離をおいて、違った角度から子どもたちを見ている教育センターの担当スタッフとの振り返りが、新たな目標の一助になり、気持ちを新たにすることができるとなると思っています。

いろいろな思いが交錯する日々を過ごしていると、心労がたまり「もう、何もしたくない」と思うってしまうことがあるかと思います。頭でウダウダ考えて悩むよりは、まず何より身体や環境を自分の目標に合わせてセットする必要があります。人間の脳は行動することから始めるとやる気が高まります。「楽しいから笑う」ではなく「笑うから楽しい」、「やる気が出たからやる」のではなく「やるからやる気が出る」のです。

私たちは、うまくいかないこと、思い通りに

ならないことが続いてしまうと、「どうして...はダメなんだろう」という思いにとらわれてしまい、「どうして、どうして...」とぐるぐる周りの思考に陥り、進むも引くもできなくなってしまいます。「どうして」と考えることも現実を直視し、反省点を見つめることとしては悪いことではありませんが、「どうしたら」という前向きな考え方にいたらない。先程も書きましたが、脳がやる気を出すためには、まず体を先に動かす、行動してみることから始めなければ、「やる気よ出てこい」「良い方法よ出てこい」と座り込んだまま念じても決して出てきません。やる気のスイッチは、まず体を動かしてスイッチONになるのです。動いていくと脳もどんどん活性化し思考が前向きになっていきます。

また、頑張るためにはご褒美も必要です。脳の研究でもご褒美の喜びは、やる気やモチベーションを司る脳部位を活性化させると言われています。「自分の気持ちいい」と思える刺激があると「もっとやろう。頑張ろう。」と続けられるのです。「どうして」とならず、「どうしたら」という前向きな思考にしていくために、「とにかく教育センターにいこう。そして相談してみよう」と体を動かし、行動して、やる気スイッチONにしてほしいと思います。

教育センターは、保護者の方々と「どうしたら」を一緒に考え、子どもたちには変化をもたらすように支援し、明日に向かっていく気持ちのいい刺激というご褒美を誰もが得られる場所として、今後も広く支援を続けていきます。次年度もどうぞよろしくお願い致します。





## 療育プログラムのようす 【各教室・言語・ラーニングプログラムの様子】

### 幼児絵画造形教室 季節

のものも製作に取り入れています。2月は『冬』。北風の吹く寒い時には「てぶくろ」が必需品です。この1年で手先を使って「つくること」を楽しんできた子どもたちは、この日の「てぶくろ」製作にも喜んで取り組みました。小さな穴1つ1つに根気よく糸を通して縫っていきます。完成すると本当に手にはめて「あったか〜い」と頬ずりしている子どもいました。(吉野)



手袋製作中

### 言語プログラム 人物と名詞

を自由に組み合わせる3語文を作る練習をしています。始めは「お兄ちゃんと帽子」しか言えなかった子ども、やり方を理解してくると「お兄ちゃんが帽子をかぶる」と言えるようになります。また繰り返すことで、想像力をはたらかせて「お兄ちゃんが帽子を被って公園に遊びに行った」など長い文章を作ることもできるようになりました。(岸)



お話を作るう

**体育教室** プレイルームのボルダリングの壁が新しくなりました。高い位置にもホールドを設置できるようになり、中高生向けの難易度の高いコースづくりが可能になりました。また、小学生のクラスでも、友だちと高さを競い合うなか、天井付近まで登れるようになった子どももいました。全体に言えることは、回数を重ねる度に、ホールドの選び方が上手になり、登るだけでなく、ゆっくり降りられるようにもなってきました。(鈴木)



新しいボルダリングの壁

**SST教室** 土曜日のSST教室では、1・2年生クラスと3・4年生クラスは合同で、「ストローじゃんけん」と「ブロック渡り」を行いました。普段はそれぞれのクラスで活動を行



ストローじゃんけん

ていますが、合同で行う授業の中で1・2年は普段関わらないお兄さん、お姉さんと関わる機会を、3・4年は年下の友だちとの関わり方を学びながら皆で楽しく活動することができました。(猪野)

**ダンス教室** 1月にダンス発表会を終えて身体表現の課題に入りました。布を使って風や波をイメージして動くことや、ゴム風船がふくらむ様子を観察して即興で表現することに挑戦しました。ふくらみ始めやしぼんで落ちるところは一人ひとりの持ち味がとてもよく出ていて、演じる側も見る側も楽しい時間になりました。まさしく「みんなちがって、みんないい」の世界です。3月は、4月から取り組んできた課題を振り返り、動きの復習をしていきます。(新堂)



風船がふくらむ様子を観察

### ラーニングプログラム

学習を始める前などに「ひがしインターバルトレーニング」を行っています。20秒間ジャンプやスクワットなどの運動をして、10秒間休憩…を4セット繰り返します。思い切り体を動かすことによって、効率的に学習することをねらいとしたものですが、その場かけ足ができるようになるなど、体の動かし方にも上達が見られてきています。(臼井)



ひがしインターバルトレーニング

**幼児体育教室** バランスボードに取り組んでいます。初めはなかなかバランスがとれず、まっすぐに立つことすら難しかった子どもたちも、練習を積んでいくことで、少し



バランスボード

ずつ腰をひねりながら踏み込む連続した動作ができるようになってきました。足場が不安定な恐怖心と戦いながらも一生懸命に取り組む姿に子どもたちの成長を感じています。(久留)

**コンピュータ教室** 一年間のまとめとして、新聞づくりを行っています。テーマは「1年間がんばったこと」「趣味について」のどちらかを選んでトピックスを3つ考え、下書きを作成しました。その後、パソコンを使ってフォーマットに入力しました。コピー&貼りつけやフォントの大きさ、色の変更など今まで学習してきたスキルを使いながら取り組み、個性豊かな新聞が完成しました。(高橋)



新聞づくり



【スクールプログラムの様子】

**幼児** ひなまつりの製作に取り組んでいます。親子教室と年少スクールでは折り紙を使った立体的なお雛様を作りました。年中は折り紙で少し複雑な着物を折りました。年長は自分で雛人形を描き、背景は新緑の色を絵の具で着色しました。絵本や歌でも親しんだひなまつりを皆楽しみにしています。(久留)



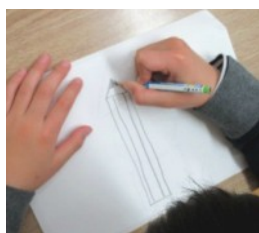
ひなまつり製作

**1年生** 算数では、「大きな数」の学習をしています。1から100までの数の順序を学んだり、クリップを使って10の束を作ったりしました。また、硬貨を使って10円や1円を合わせた金額などを答える練習にも取り組んでいます。生活の中で活用できるよう、今後いろいろなことを学んでほしいと思います。(宮下)



全部でいくつかな？

**2年生** 1年を通して、担当者の口頭指示から形、大きさ、描く位置を聞き取って絵を描く「聞き描き」を続けてきました。上下左右の位置関係や形同士の大きさのバランスに、初めは苦戦していた子ども達も、回を重ねる中で、描いている途中で何を描いているのか類推できるようになっています。今では皆、「聞き描き」名人です。(猪野)



聞き書き名人

**3年生** 4時間30分のスクールプログラムでは、給食の時間があります。「今日の給食は何？」と朝からメニューを気にしている子もいます。午前の授業を頑張った後は、給食を運ぶ係がスタッフルームまで給食を取りに行きます。配膳を終えると、日直の「いただきます！」の号令で給食の時間です。お箸の持ち方、食べ方を細かく指導しながら、皆で楽しくおいしく食べることを何よりも大切にしています。(諸橋)

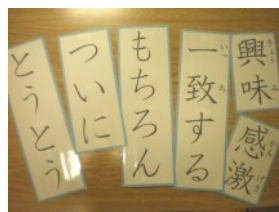


おいしいね



この信号を右に曲がって

**4年生** 絵地図や路線図を見て道案内の仕方を学習しています。「一つ目の信号を左に曲がって、まっすぐ行くとつきあたりにケーキ屋さんがあります。」など、目印となる「信号」「建物」を言うだけでなく「つきあたり」などの言葉を使って説明できるようになりました。相手にわかりやすく説明ができることで生活の幅を広げていくことを目標にがんばっています。(藤本)



いろいろな言葉を知ろう

**6年生** スクールプログラムでは、国語の時間に『いろいろな言葉を知ろう』という学習をしました。教科書に出てくるさまざまな言葉を集め(「ようやく」「興味がある」「一致する」など)、言葉の意味を覚えたり、それらの言葉を使って文章を作ったりしました。一つでも多くの言葉を覚えて、語彙力を高めていってほしいと思います。(大澤)



お金の学習

**5年生** 算数の今年度最後の単元は「お金」です。子どもたちの習熟度に合わせて、硬貨・紙幣のイラストを見て合計金額を求めたり、電卓を使っておつりを求めたりする学習をしています。また、980円の商品を買う時におつりの枚数が少なくて済むのは1000円よりも1080円、などの応用的な問題にもチャレンジしています。実際の買い物でも上手にお金が扱えるように、一生懸命練習中です！(臼井)



上手に発表

**中学生** 『話し方はどうかな』という国語の単元で、句読点や文節で間を取り、抑揚をつけて音読する練習をしています。文節で間を取ることに意識づけとして、「続いて／気象情報です。」のように間を取るべき箇所に「／」を入れた教材を使用しました。また、時間を指定したり、友だちの音読を聞いたりすることで、効果的な学習ができました。(吉田)



コラム 自閉症児の発達研究から (2)

ロボットは人の心がわかるようになるか？

人工知能やロボットの研究者が自閉症に強い関心をもっていることをご存じでしょうか。彼らの究極の目的は「鉄腕アトム」のような自律型ロボットを作ることです。アトムは7つの力を備えています。遠くのかすかな物音が聞こえたり、暗闇の中でも物が見えたり、60か国語を話せたりするのですが、その中に「良い人と悪い人を見分ける力」というのがあります。人の心を読み取る力といってもよいでしょう。漫画ではアトムは2003年に誕生することになっていました。この7つの力のうち6つまでは今日の技術で実現できそうですが、心の読み取りだけは、アトムの誕生予定日から10年以上過ぎたいまでも機械にはできません。歩いたり踊ったり話したりするロボットはありますが、「人の心

がわかる」ロボットまでは作れていないのです。どうやったらそのような機能を設計できるのか、そもそもそれはどのようなプログラムからできあがっているのか、最先端の工学者でもアプローチの方向に関する見通しさえ立っていないそうです。それで、ロボット開発者たちは、心の読み取りに困難を抱える自閉症の子どもの発達を詳しく調べれば、そのヒントが得られるのではないかと期待しているようなのです。

人は言葉や表情で相手の心を読み取りますが、同じ言葉でも状況や関係によって意味が変わります。たとえば「あほやなあ」という言葉の意味は、相手や場面によっては親しみを表すものになります。コンピューターにはその微妙な判断

藤野 博(東京学芸大学教授)

ができないのです。コンピューター将棋のように、いろいろなパターンを力まかせに憶えさせる方法もあるでしょうが、心の動きのパターンは無限にありますから、その方法では限界があります。人がやっていて機械がやっていないことは何か。一緒にいることが心地良い、楽しさを分かち合いたいという気持ちから起こる他者への歩み寄りではないでしょうか。自閉症の子どもにとって難しいことですが、武蔵野東学園のお子さんたちにはその成長がみられます。それは何らかのプログラムをインストールすればできることでもないようです。鉄腕アトムが生まれる日はまだまだ遠そうです。



このコラムは4回シリーズでお届けしています。



ホームカミングデイ



2月20日(土)に、以前プログラムを受講されていた生徒と保護者の方々をお招きし、ホームカミングデイを開催しました。今回は全9組20名のご家族の参加がありました。

初めに自己紹介や近況報告をし合ったあと、生徒はボルダリングなどのレクリエーション、保護者の方々は歓談を楽しみました。慣れ親しんだ場所で、久しぶりに再会した仲間やスタッフと楽しい時間を過ごし、充実した時間となりました。

受講されていた方々とのつながりを維持できるよう、来年度もホームカミングデイを行います。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org



ホームページもご覧ください

http://www.musashino-higashi.org

セミナーのご案内

平成28年度のセミナーの日程が決まりましたので、ご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせいたします。4月上旬より募集をしますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

- ①平成28年 5月27日(金) 10時~12時
- ②平成28年10月13日(木) 10時~12時
- ③平成29年 2月24日(金) 10時~12時